

平成 27 年第 3 回定例会（H27 年 9 月 9 日）

○4 番（櫻井 茂君） 4 番・櫻井 茂です。どうぞよろしく願いをいたします。質問に先立ちまして、本日は、東海地方ですか、こちらのほうに台風が上陸するということで、大雨警報も出ているようでございます。質問のほう、なるべく短目という形で準備をさせていただきました。執行部のほうも答弁のほうをよろしく願いしたいと思います。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

まず 1 点目です。石岡市中心市街地活性化基本計画の成果と今後の取り組みについて、こちらを質問させていただきます。

現在の石岡市中心市街地活性化基本計画は、平成 21 年 12 月、5 か年計画として、内閣府の認定を全国で 84 番目に受けまして、スタートいたしました。当時、総務企画委員会において、計画区域内の歩行者数と定住人口の減少を食い止め、増加させるために、JR 石岡駅を中心とした交通結節点ゾーン、これに、中町商店街の看板建築や総社宮、国府跡などの歴史的資産を持つ歴史のまちゾーン、この 2 つのゾーンを結ぶ御幸通りに、テナントミックス事業と称してさまざまな取り組みを進める、2 核 1 モールによる活性化を図るとの説明がされております。

その後、事業がどのように展開され、どのくらいの予算が投入されたのか、そして、その結果はどうなったのか。現在は、交通結節点ゾーンに位置する石岡駅舎の橋上化工事が着々と進んでおりまして、今月 5 日、東西自由通路が開通し、来年 3 月末には駅舎が完成する予定となっております。中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告書によれば、5 か年計画を 1 年延長し、今年の 11 月末までの計画期間と記載をされております。

そこで、お伺いしたいと思います。最初に、中心市街地活性化基本計画に基づき、各種事業がどのように展開されてきたのか。特にテナントミックス事業については、基本計画の肝とも言える部分であると思います。空き店舗活用補助制度や市民が主体となって行ういしおか七夕まつりへの支援など、多種多様な事業が展開されてきました。これらをどのように進めてきたのか、そのために基本計画がどのような役割を果たしてきたのかをお伺いいたします。

次に 2 点目、中心市街地活性化基本計画においては、数値目標を設定していますが、目標達成度及び成果をどのように評価しているのか。そして、この評価を今後どのように活かしていくのかについてお伺いをいたします。

次に 3 点目、目標達成に寄与する主要事業として、7 事業の進捗状況と事業効果を示しておりますが、未着手となっている事業について、なぜ着手できなかったのか、その理由を伺います。

次に 4 点目、中心市街地活性化基本計画の計画期間が平成 27 年 3 月末から 11 月末に延長された理由と、計画期間終了後、12 月以降ですが、この取り組みをどのように進めるのか、お考えをお伺いしたいと思います。

以上、1 回目、終わります。

○議長（塚谷重市君） 経済部長・前沢君。

○経済部長（前沢洋一君） 石岡市中心市街地活性化基本計画の果たしてきた役割と成果、そして今後の取り組みについてお答えを申し上げます。

まず1点目の、中心市街地活性化基本計画の各種事業の展開、基本計画の役割についてお答えいたします。中心市街地活性化基本計画におきましては、快適で安心した暮らしと、人々が行き交うにぎわいの実現を目指し、市や商工会議所をはじめ、計画に位置付けられた団体等が事業主体となって、事業の連携、相乗効果を意識した形で取り組みを進めてきたところでございます。

事業の進捗状況でございますが、掲載事業54事業のうち41事業が完了または着手済み、13事業が未着手となっております。その中で、空き店舗等活用支援事業でございますが、空き店舗調査や意向調査を進めながら、制度のPRや相談活動に取り組み、平成24年度の開始から昨年度までの3か年で、計6件の実績がございます。今年度におきましても2件の実績がございます、このほか三、四件の引き合いがあるところでございます。またいしおか七夕まつりでございますが、平成23年度より石岡御幸通り商店街が主催となり、毎年7月に実施しております。回を重ねるごとに人出も増し、にぎわいづくりと商店街の活性化に寄与しているところでございます。いずれも、本計画の活性化戦略であるテナントミックス事業の面的展開によるにぎわいづくりの強化のための重要な事業として、市といたしましても力点を置いた取り組み、また支援を行ってきているところでございます。

こうした事業の展開の中で、本計画は積年の課題であった駅周辺整備事業を中核に位置付け、交通結節点としての機能向上に加え、時代の歴史探訪を可能にする環境づくりや、生活支援機能の向上を目指したにぎわいづくりなど、さまざまな事業者と一体となったまちづくりを行う上での指標としての役割を果たしてきたと考えてございます。

なお、事業展開に要した事業費は、平成26年度までの実績で、駅舎整備に約6億6,700万円、BRTを含む駅周辺整備に約12億7,100万円、テナントミックス事業に約9,500万円を主なもといたしまして、総額約30億4,800万円となっております。

次に2点目の、目標値に関する実績の評価でございますが、居住人口及び歩行者通行量とも目標値を達成していない状況でございます。居住人口につきましては、全市的な人口減少という課題のある中、賃貸住宅ストック活用事業が着実に成果を上げているところでもございますが、厳しい経済状況等により、公共・民間住宅に係る事業が未着手となっているなど、目標達成は厳しい状況となっております。歩行者通行量については、テナントミックス事業等において未着手の事業があるものの、基準年の水準まで持ち直していることから、一定の成果を上げていると考えております。

今後におきましては、特に人口については、中心市街地のみならず全市的な取り組みが必要であることから、総合戦略における石岡市人口ビジョンの考え方の中で、中心市街地の人口維持を主眼とした施策を検討してまいりたいと考えております。あわせて、歩行者通行量におきましては、観光振興計画との連携を図りながら、その増加を目指してまいりたいと考えております。

次に3点目の、未着手となっております事業内容、理由についてでございますが、施設設備等のハード事業が多くなっております。駅周辺整備事業に係る公共及び民間住宅の整備におきましては、市の財政状況や民間需要等から実現が難しい状況となっております。また、いわゆるテナントミックス事業におきましては、石岡スイーツプロジェクト、地元農産物直売所事業を株式会社まち未来いしおかの運営により実施してまいりましたが、開店直後の東日本大震災による売り上げ落ち込みの影響などもあり、経済状況の改善に時間を要したこと、また、事業の担うプレーヤーの確保の問題等から、順次行う関連事業につきまして、着手できていない状況でございます。

次に4点目の、計画延長の理由についてでございますが、駅周辺整備事業における駅西口広場整備やBRTターミナル整備等の完了予定が今年度末となっております。本計画に位置付けられている社会資本整備総合交付金の活用して継続して行っていく関係とあわせまして、計画延長が可能な最長期間、最大6年未満となりますけれども、その期間、平成27年11月まで期間を延長したものでございます。

本計画終了後の取り組みでございますが、現在、次期中心市街地活性化基本計画の策定に取り組んでいるところでございます。この次期計画におきましては、国の認定にこだわらない形で、身の丈に合ったより実効性の高い計画とするべく、地元商業者等を含めた計画策定ワーキングチームにおいて検討を行っております。特に来街者の増加による活性化を主眼といたしまして、まち中の観光資源と駅周辺を回遊していただくための動線づくりに資する事業について、関係者横断型のプロジェクトチームによる事業精査を行い、事業主体者及び官民を含めた関係者が連携した事業計画、実施体制をとっていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（塚谷重市君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 2回目の質問をさせていただきます。平成22年の第2回定例会において執行部は、テナントミックス事業は大まかに2億円ということで、計画開始時点でテナントミックス事業の予算の予想を立てております。先ほど申し上げましたように、2核1モールによる活性化を目指す中で、御幸通りのモール化がテナントミックス事業の肝と私は思っておるわけでございますが、大まかに2億円と予想していたものが、今、答弁を聞きますと、半分の約9,500万円の決算であるということでお伺いしました。この点については、いささか腑に落ちないという気がしております。今後は、集客力のある事業、イベントに対しては、もっと積極的に支援を展開してもいいのではないかと考えております。

今回、いろいろな事業を展開される中で、まちかどギャラリーカフェ事業、こちらで滝平二郎作品展、石岡の昭和作品展、石岡ゆかりの作家たちの作品展などの3つのギャラリーを実施されておりますが、展示方法やタイアップ事業などを工夫して、もっとアピールをしてもよろしいのではないかと思います。例えば石岡カフェのそばでギャラリー展を開催することで、石岡カフェ、それとギャラリー、双方が潤うような工夫も考えていただきたいと思います。中でも滝平二郎氏は、石岡一高出身者で石岡市との縁が非常に深く、切り絵作家としては全国区の知名度を誇っております。展示作品の確保と展示方法など、相当ハードルは高いと思いますが、有料による常設展示

といったものを考えていきますと、観光バスのツアー客などの集客力も大いに期待できると思いますので、ぜひともご検討いただければと思います。

さらに、中心市街地空き店舗活用補助制度の充実がございます。これを活用して出店された方がおありまして、この方のご意見を聞く機会がございました。市は、出店するまでは世話を焼いてくれる。であるが、出店した後は何のフォローもない。職員が店を訪問し、その後の状況を聞くこともない。こういった声を耳にしたところです。こうした声があることに対しての見解をお伺いしたいと思います。

次に、目標達成についてでございますけれども、定住人口増加対策については、石岡駅東側の旧鹿島鉄道跡地をURから買い戻すこととなり、公営住宅と民間住宅の導入が事実上頓挫した段階で、不可能になったことはわかっておりました。非常に厳しいとは思いますが、新たな戦略を練り直し、再起を図っていただきたいと思います。

歩行者通行量につきましては、答弁いただいたように、平成20年の基準値に比べ大きく下がっておりません。しかし、これは、何を優先するかなどの判断材料として、今後の計画にしっかりと生かしていただきたいと思います。この点に関しては答弁は要りません。

次に、未着手事業に関しましては、未着手事業、あるいは一部着手している事業でも、内容を精査していただいて、やめる勇気も必要だと思います。要は集客力が見込めるかどうかの話になりますので、集客力が認められないような事業については、しっかりと判断をしていただきたいと思います。既に着手している事業のパワーアップを図ることはもちろんですが、先が見込めないものや、需要を期待できないものを見きわめる決断力、これも求められると思います。安易な取り組みは、屋台村のような、お金を捨てるような結果になりますので、内容を吟味し、責任の所在を明らかにした上で、今後の計画に盛り込むことをお願いしたいと思います。

計画期間の延長につきましては、駅舎の整備の関係等がある、それともう一つ、計画期間が最大6年間であったということで了解をいたしました。

次期中心市街地活性化基本計画策定に向けて、ワーキングチームが検討を開始しているということでございますが、次期計画がまとまる次期はいつごろを想定しているのかをお伺いしまして、2回目の質問を終わります。

○議長（塚谷重市君） 経済部長・前沢君。

○経済部長（前沢洋一君） まちかどギャラリーカフェ事業の取り組み、または空き店舗補助制度の出店者へのフォロー、また次期計画の策定期間という3点につきましてお答えをいたします。

まず、まちかどギャラリーカフェ事業につきましては、議員のお話にもありましたけれども、昨年度に3回のギャラリーを開催しまして、延べ823人のご来場をいただき、にぎわいづくり、または今後の事業展開の参考ということになったところでございます。今後の事業計画といいますか、展開につきましては、新たな計画の中で位置付けを行っていくこととなりますけれども、議員のご提案のように、さまざまなタイアップといいますか、関連付けた事業展開で開催できればと考えております。

例えば、作家さんに一定の期間、ギャラリーに常駐をいただきまして、作品の解説とかミニワークショップなどを開催していければ、集客力のアップにもつながってい

くと思いますし、またはご提案にあった石岡カフェの活用といたしますか、連携といたしますか、この辺も大事な要素だろうと考えておりました、検討してまいりたいと考えてございます。特に滝平二郎氏の作品の展示ということにつきましては、昨年も実施しておりますけれども、現物といたしますか、そのものの展示につきましては、許諾関係、または展示会場の環境とかセキュリティーの問題、そういった課題がございますので、これらを含めて、その可能性を追及してまいりたいと考えてございます。

また、空き店舗活用の補助制度の出店者へのフォローということでございますが、議員のご指摘のとおり、入店後のフォローについては十分でなかったということで、認識をしているところでございます。今後におきましては、商工会議所と連携を図りながら、会議所主催の経営者セミナーへのご紹介をすとか、あと出店者同士での意見交換、情報交換、または要望を聞き取る、そういった場をつくって、継続的にフォローアップができるよう取り組んでまいりたいと考えております。

最後の、次期計画の策定期間ということでございますけれども、今年11月の、現在の計画の終了時を目指しているという、計画の継続性からいって、それが目標ではございますけれども、現計画の検証、事業計画の整理、または意見の集約、または関係機関と申しますか、中心市街地活性化協議会、あと、もちろん議会等でのご意見をいただくことが必要であり、それを反映して策定を進めていかなければならないということで考えておりますので、本年度内の策定も視野に入れながら、今、取りまとめを急ぐところでございます。

以上でございます。

○議長（塚谷重市君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 答弁いただきました。この6年間の中心市街地活性化基本計画の成果と今後の取り組みということで質問をしてきたわけでございますけれども、今回、現在の中心市街地活性化基本計画を進める中では、私的には、残念ながら合格点はつけられないような気がしております。鳴り物入りで招聘しましたタウンマネジャーの行動であるとか、旧鹿島鉄道跡地購入契約における議会無視と不良債権化した現在の跡地、そして屋台村のでたらめな対応と無駄遣い、さらには石岡駅前ビルの移転補償費の問題など、正直なところ、市民の印象も同様かと思えます。計画そのものに罪はないわけで、計画を動かすのは人ということを考えますと、この6年間の取り組みは、残念ながら市民の信頼を大きく裏切り、一般財源を浪費するケースが目立ったことを、しっかりと反省しなくてはならないと思えます。結果として、活性化を停滞させた責任は誰もっておりません。

石岡市が本格的に中心市街地の活性化を開始いたしましたのは平成12年、当時、企画課長であった今泉市長が中心であったと記憶しております。当時、まちかど情報センターの設置をはじめ、中心市街地活性化プランの策定をされ、また、まち蔵藍や空き店舗対策に力を注いでこられたと記憶しております。いわば第1期の基本計画として焦眉の急との精神で、補助事業を待たずに事業を進めるなど、他市に先んじての取り組みも多かったと思えます。いわば活性化の種をまき、萌芽の時期であったように思っているところです。

そして、現在の第2期に相当する基本計画、こちらは残念ながら、活性化の芽を潰

してしまった事案も複数あるなど、停滞の6年間という気がしております。活性化の種をまいた今泉市長にとりましては、現在の状況に対して特別な思いもあると思います。今泉市長、そして、かつて企画課に在籍し、同様の作業をされておった田崎副市長も、その目で中心市街地の変遷を体感されてきたわけですので、今回、第3期とも言える次の石岡市中心市街地活性化基本計画をしっかりと練り上げていただきまして、基本計画を着実に実行に移し、成果を上げる責任があることを肝に銘じていただきたいと思ひます。どうか強い決意を持って、基本計画策定とその実行に向けて突き進んでいただきたいと思ひますので、その決意をお伺いしたいと思ひます。

以上です。

○議長（塚谷重市君） 副市長・田崎君。

○副市長（田崎 徹君） 中心市街地活性化基本計画につきましては、部長より答弁もありましたとおり、一定の成果を上げているというふうには感じてございますけれども、経済状況等の事情で着手していない事業もあります。道半ばという状況であると感じてございます。中心市街地活性化協議会におきましても、本計画の現況から次期計画の重要性と、市の役割への期待を感じているところでございます。今後も、協議会委員の皆様をはじめ、各方面からのご意見を頂戴しながら、新たなる計画の策定及び活性化策へと取り組んでまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（塚谷重市君） 市長・今泉君。

○市長（今泉文彦君） 第3期の中心市街地活性化について、その意欲というか、抱負を語ってほしいということでもありますけれども、私が第1期の中心市街地活性化基本計画に携わったときは、まだ石岡市のかつてのにぎわいが残っている時期でありました。明治期には、水戸に次ぐ第2の商都と言われた石岡の時代もあったわけでありましてけれども、そのかつての栄光をいくらか引きずっていた時期でありますけれども、そういったときに、市民の誇りを取り戻し、中心市街地のにぎわいを何とか戻せないかということで、まちかど情報センターやまち蔵藍、あるいは登録文化財、今、看板建築になっておりますけれども、そういった基礎をつくってきたと思っております。

残念ながら、地域活性化というところにはまだまだ結び付いておりませんが、蓄積されたもの、地域資源というのは、まだまだ眠っているものと思っております。それらにスポットを当てて、さらにリニューアルして、新しい中心市街地を活性化させて、第3期には、新たな時代に適応した石岡の新しい顔をつくっていければと思っております。

今回、石岡駅が新しくなって一部供用開始がされましたけれども、駅の扁額に、石岡駅というところに、徳富蘇峰の「石岡驛」という揮毫された石岡の銘板がありますけれども、これは石岡ならではの扁額でありまして、そういったささいなところでもありますけれども、石岡ならではの輝きというのがあるかと思ひます。そういったものを大切にしながら、新しいまちづくりに邁進していきたいと思ひます。

以上であります。

○議長（塚谷重市君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） それでは、2点目の、認知症の予防とケアの充実に向けた取り組みについてお伺いをいたします。

認知症にかかる方ですが、我が国の高齢化の進展とともに、その人数が増加しております。平成24年時点で65歳以上の高齢者3,000万人中462万人、約15%の方、7人に1人が認知症であると言われております。そして、日常生活にはほとんど影響はありませんが、認知症の前段階である正常と認知症の間にいる方、ある意味、認知症の予備軍的な位置に分類される方、こちらは400万人おり、認知症の方とその予備軍の方合計では、65歳以上で4人に1人の割合になるとの研究結果が報告されております。石岡市に置き換えてみますと、本年7月1日現在の人口は7万5,971人、このうち65歳以上の方は2万2,634人、この15%を計算してみますと、石岡市の場合ですと3,395人という数字になります。高齢化率は29.9%でございます。

認知症は、本人あるいは家族が認知症かもしれないということを早期に確認し、専門医に診てもらうことが、本人、そして家族の負担を軽減させ、社会的には介護保険費用の削減につながることであります。そこで、本市における認知症の早期発見・早期治療に対する取り組みについてお伺いをしたいと思います。

1点目です。石岡市にお住まいの方の認知症に関する相談受付と助言指導はどのように行われているのか、お伺いをいたします。

2点目、厚生労働省は、認知症施策推進5か年計画の中で、認知症の進行状況に合わせて提供される医療や介護サービスの標準的な流れを示した、認知症ケアパスの作成普及を市町村に求めております。認知症ケア全体の流れを左右することになる石岡市の認知症ケアパスの作成と普及状況について、お伺いをいたします。

3点目、医療・介護及び生活支援を行うさまざまなサービスを連携させたネットワークを形成し、地域での日常生活・家族支援体制の強化を積極的に展開するために、本市における認知症地域支援推進員の配置について、どのような考えを持っているのかをお伺いいたします。

4点目、複数の専門職が家族等の要請により、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期支援を包括的、集中的に行い、自立生活サポートを行う認知症初期集中支援チームの設置について、どのような考えを持っているのかをお伺いしたいと思います。

以上、終わります。

○議長（塚谷重市君） 保健福祉部長・武熊君。

○保健福祉部長（武熊俊夫君） ご答弁申し上げます。まず1点目の、認知症に関する相談受付と助言指導についてでございますが、認知症に関する相談受付につきましては、地域包括支援センターをはじめ、市内6か所の在宅介護支援センターや民生委員・児童委員、介護支援専門員、介護施設従事者等で随時行われてございます。なお、困難事例につきましては、地域包括支援センターに連絡が入る体制となっております。

相談受付後は、必要に応じまして、状況確認のための面接や家庭訪問を行いまし、て、介護方法の助言、介護サービスや医療機関受診等の連絡調整を行っております。

助言指導につきましては、平成23年度から、市内精神科病院勤務の精神保健福祉士と、地域包括支援センターの保健師等が同行訪問して助言指導を行います、認知症相談会を実施しております。また平成27年度から、認知症簡易チェックサイトを石岡市のホームページに掲載いたしまして、パソコンやスマートフォンなど、初歩的な段階とはなりますが、認知症の確認ができるようにしてございます。

次に2点目の、認知症ケアパスの作成と普及状況についてでございますが、認知症ケアパスにつきましては、事業所向けの認知症ケアパスを平成26年度に作成いたしまして、介護保険事業者等へ配布してございます。市民向けの認知症ケアパスにつきましては、今年度、認知症初期集中支援チーム運営委員で協議検討を行いまして、作成・配布する予定となっております。

次に3点目、本市における認知症地域推進員の配置についてでございます。今年度、認知症初期集中支援チーム員を兼ねます地域包括支援センター職員1名が、認知症地域支援推進員研修を受講したところでございます。認知症地域支援推進員の配置につきましては、将来的には日常生活圏域を考慮した配置について検討を進めてまいりたいと考えてございます。

次に4点目の、認知症初期集中支援チームの設置についてでございます。認知症初期集中支援チームは、医療や福祉などの国家資格を有しまして、認知症の相談業務等に3年以上従事した2名以上の者に、資格要件を満たす専門医1名、合計3名以上で構成されることとなっております。茨城県内では、今年度、当市と日立市が県内初めてとなります認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置したところでございます。当市におきましては、地域包括支援センター職員4名が、初期集中支援チーム員研修を受講いたしまして、専門医である丸山荘病院長の滝田泰彦医師の協力のもと、月2回の在宅訪問と月1回のチーム員会議を開催いたしまして、対象者の支援方針を決定しているところでございます。今後、認知症初期集中支援チームの活動等に関しまして、普及啓発を行いながら、早期診断及び対応に向けた支援に努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（塚谷重市君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 認知症の対応としまして、県内でもいち早く認知症初期集中支援チームの設置を今年度から行うなど、他の自治体に比べ、積極的に事業の展開をされていることがわかりました。ただ、そうした取り組みが、認知症を心配するご家族、あるいは市民に伝わっているのかということ、まだまだという気がしております。

今回の質問に当たりまして、市のホームページを何度か拝見いたしました。認知症に関する取り扱いですけれども、介護予防の中の1項目として、小さな取り扱いという気がいたしました。もっと積極的に、大きく取り扱っていただければと思います。特に、せっかく載せている認知症簡易チェックサイト、こちらあまり目立っておりません。認知症の家族を持っている方は、大変な思いをしながら、日々認知症と向き合っておられます。もしくは、認知症ではないのかなという不安に駆られているわけで、病院に行かなくても、インターネットで認知症かどうかをはかることのできるチェックサイトは、非常に便利だと思いますので、もう少し目立つような形で表記をし

ていただけたらと思いますが、この辺のホームページの今後の展開について、再度お尋ねをしたいと思います。

次に、市民向けの認知症ケアパスでございますけれども、あらかじめ認知症の人とその家族関係者にこのケアパスを提示することは、どのような対応をしたらいいのかという不安を抱える家族にとっては、ある意味、道しるべとも言えるものです。個人用の認知症ケアパスを本年度つくるということでございますので、なるべく大きな字を使っていただいて、図式化するなど、わかりやすいものをつくっていただきたいと思います。この市民向けのケアパス完成の暁にはどのような形で市民に見ていただくのか、希望者へ配布する予定があるのかをお伺いしたいと思います。

認知症地域支援推進員の職員が1名養成されたということでございますが、この職員の方が今後大きな役割を果たされることを期待しております。当然1名では足りないと思いますので、今後の研修計画や配置人員について、どのような考えを持っているのかをお伺いします。

それと、先ほど日常生活圏域を考慮した配置を検討するということでの答弁をいただきましたが、この圏域、エリアですね、広さはどの程度と考えておられるのか。要するに、石岡全部を1つの圏域で考えてしまいますと1人になってしまいますので、1人では多分足りないと思いますので、この圏域の広さ、区域をどのような基準で考えられているのかをお伺いしたいと思います。

それと、県内他市に先んじて、いち早く認知症の専門家がチームを組んだという答弁がございました。個別の事案についてどのようなケアを行うべきか検討中との答弁でもありましたけれども、相談者数やケアの頻度など、スタートしたばかりの認知症初期集中支援チームにとっては、今は手探りの部分もあるかと思います。認知症に悩む方々にとりましては、わらにもすがる思いで相談されているものと思います。精神的にも肉体的にもぎりぎりの中で相談されるケースが多いと思いますので、どうか相談者の心に寄り添った対応を心がけていただきますようお願いをいたしまして、2回目の質問を終わります。

○議長（塚谷重市君） 保健福祉部長・武熊君。

○保健福祉部長（武熊俊夫君） ご答弁申し上げます。まず、認知症に関するホームページ上での取り扱いでございますが、認知症簡易チェックサイトも含めまして、関係部署と協議しながら、ホームページ上の取り扱い方を工夫してまいりたいと考えてございます。

次に、認知症ケアパスの配布についてでございます。高齢福祉課、地域包括支援センター、在宅介護支援センターなどの相談窓口を設置いたしまして、相談者、もしくは希望される方に配布する予定となっております。

次に、認知症地域支援推進員の研修につきましては、受講者数に限りがございます。まずは、地域包括支援センターの受講資格を満たしている職員を優先して、受講させたいと考えてございます。また、日常生活圏域につきましては、現在の中学校区に準じまして、6つの日常生活圏域を設定しているところでございます。将来的には現在の日常生活圏域を考慮した配置について、検討していきたいと考えてございま

す。

以上でございます。

○議長（塚谷重市君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） ありがとうございます。認知症の方を家族に持つ方、あるいは悩まれている方は、先ほど申し上げましたように、日々大変な思いで過ごされている方がたくさんおられます。特に劇的に記憶を失って、家族もびっくりするような行動をとられるというようなケースにおいては、相談窓口がどこなのかさえわからないで混乱するという家族もたくさんおられますので、市報、ホームページ等で積極的に、認知症の相談を受け付けていますよということを日ごろからアピールしていただきたいと思います。よろしく願いをいたします。

次の質問に入ります。道路整備の促進についてでございます。道路の幅員が狭く、車のすれ違いに注意を要する道路、歩行者の安全が十分に確保できない道路の整備についてお伺いをいたします。

県道140号線北府中地内、石岡第二高等学校前から柏原工業団地に抜けるこの一部区間において、昨年度、道路の拡幅工事が行われました。この一部区間というのは、ふたば保育園前の部分です。緩いカーブで幅員が狭く、保育園児の送迎に保護者の車の出入りが多く、非常に危険な道路でした。昨年度末、これは今年の3月ということですが、約100メートルほどでしょうか、拡幅工事、整備工事が行われまして、現在は安全性が飛躍的に向上したと思いますけれども、その拡幅されたところ以外の部分、通行に相変わらず支障が出ている部分がございます。ふたば保育園前から石岡第二高等学校方面にかけては、道路の両袖に側溝が布設されておりまして、乗用車がすれ違う際には、側溝のふたの上をそれぞれが走行するというようなことで、大きな音を立てながらの走行もしばしばです。柏原工業団地も近いことから大型車の走行も多く、拡幅されたことで車のスピードが上がりまして、この狭い部分の危険性がより増したと言えなくもない状況です。

地元の方々の話では、用地買収が難航しているのも、この先の整備には時間がかかると聞いているという話もあり、今後の整備が早く進むことを願うような状況です。実際にどのような整備計画があるのか確認させていただきたいと思います。今回整備された工事概要と、今後の整備計画が県との間でどのように協議されているのかを確認させていただきます。

2点目、石岡小美玉スマートインターチェンジ開通に伴いまして、スマートインターチェンジから石岡給食センター前を通過する新たに整備された市道A2484号線と村上・六軒線が交わる交差点から、ガソリンスタンドの脇を南に延びる市道A2188号線の拡幅延長工事計画の概要と進捗についてお伺いをしたいと思います。この市道A2188号線は、柏原工業団地に近いこともございまして、朝夕の混雑時の抜け道として利用されることが多く、普通車1台分の車幅分しかない道路幅員でございますが、曲がりくねった道で見通しが悪いため、非常に危険な道路となっております。車のすれ違いはほぼ無理な状況のため、すれ違う際には、どちらか一方が民家の庭に車を入れて通行するような状況でございます。この路線は、国道355号線、旧笠間街道府中4丁目地内まで延伸する計画があると思いますが、今後どのような整備

を進めていくのかをお伺いしたいと思います。

3点目です。JR常磐線国分踏切の拡幅についてお伺いをいたします。JR石岡駅北側に位置する常磐線国分踏切は、線路が大きくカーブする地点にありまして、線路は列車の遠心力を和らげるための傾斜がついており、踏切がラクダのこぶのように段差がついております。その上、踏切の幅員が狭く、自家用車の交互通行はぎりぎりの状態です。列車が通過した後では、車両が両側で待機している場合、歩道部分がないため、歩行者がなかなか踏切を渡れません。

場合によっては、ようやく遮断機が上がったので踏切を走行しようと思ったら、また遮断機が下がる、こういったこともございます。これは、石岡駅構内に下り電車が入ると同時に遮断機が下がることに加えまして、下り特急通過の後、高浜駅で追い越された普通電車が石岡駅にすぐに入ってくると、一時的にあかす踏切になってしまうこともございます。平成2年には中学生の死亡事故も起きたという、悲しい事故もございました。この危険な踏切の安全確保のための拡幅について、市はどのようなお考えをお持ちなのかをお伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（塚谷重市君） 都市建設部長・福田君。

○都市建設部長（福田嘉夫君） それでは、道路整備の促進についてご答弁を申し上げます。

まず1点目の、石岡二高から柏原工業団地までの区間の工事計画概要と今後の整備計画についてでございますけれども、この区間の工事につきましては、ふたば保育園付近を、県事業により平成24年度から着手されてございます。延長194メートル、道路幅員10メートルの計画で、保育園側につきましては2.5メートルの歩道が設置されたところです。こちらも今年7月に完了をしております。

また、山王川からふたば保育園に向かいます区間で、道路幅員が非常に狭い区間がございます。せっかく道路の拡幅がされてきたということですので、山王川から保育園までの区間につきましても整備に取り組んでいただけますよう、県に対し積極的に要望をしまいたいと考えてございます。

次に2点目の、市道A2188号線の工事計画の概要と進捗についてご答弁を申し上げます。市道A2188号線、北府中2丁目地内の道路拡幅計画でございますけれども、平成14年度に石岡小美玉スマートインターチェンジ付近の国道355号線から県道石岡筑西線交差点までの整備が完了してございます。また、交差点の取り付け部分25メートルの区間につきましても、完了をしているところでございます。取り付け部から先となります未整備区間につきましては、まず、市道A0106号線の十字路までの区間を延長260メートル、道路幅員が5メートルとすることで計画をしております。本年度につきましては現地測量を行っておりますので、今後は、年次計画により整備を行ってまいりたいと考えてございます。

次に3点目の、JR常磐線国分踏切の整備状況についてご答弁を申し上げます。JR常磐線国分踏切を横断しております市道A0110号線の整備につきましては、踏切待ちの際の歩行者だまりを確保をするために、平成24年度におきまして、踏切の西側50メートル区間について歩道の整備を行ったところでございます。また踏切内

の工事につきましては、交通事故も起きているということで、地元からの要望も出てございますので、今後、JR東日本と協議を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（塚谷重市君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 県道140号線につきましては、地元の方々は、用地買収さえ片付けばすぐにでも拡幅が始まると、期待感いっぱい待っている状況です。といいますのも、道路沿いに耕作を休んでいる畑がちょっと目立つというような状況で、そういった意味でも、そういう期待感であふれているのかなと感じております。県のほうも厳しい財源で推移しているかと思えます。ただ、危険性が改善されていない、また地元要望が強い、これらをどうか県のほうに伝えていただきまして、早期に拡幅工事ができますように、お願いをしていただきたいと思います。

次に、市道A2188号線につきましては、現地測量が本年度行われる予定という答弁をいただきました。一步前進という気がいたしますが、先ほど申し上げましたように、車1台分の幅員の中で、歩行者や自転車で学校に行かれる方、通勤される方は、非常に危険な目に遭っておられます。さらに、路面と道路に接している畑の段差が30センチ前後もあるような場所も多く、車が脱輪してしまいますと、自力で脱出できないケースもございます。少しずつでも結構ですので、着実に整備を進めていただきたいと思います。よろしくお願いをいたします。

次に、国分町の国分踏切でございますけれども、駅周辺整備事業が順調に今現在推移しているという中で、JRとの意思の疎通はこれまでにない良好な関係であると思えます。円滑な車の流れを確保しまして歩行者の安全を確保するため、踏切の拡幅工事についてJRと協議を進めていただければと思います。中学生の死亡事故があったことを先ほどお話ししましたが、現在、先ほど申し上げましたように、長時間踏切に待たされる車がございます。本来、譲り合いの精神で交互通行でやっていただければいいのですが、中には車をなぜ先に出さないんだというようなトラブルが起こっているという話もあります。ご近所の方は、毎日そういったものを冷や冷や感じながら見ているという話もございます。どうか大きな事故が起きる前に整備できるようJRと協議をしていただきまして、安全の確保に努めていただければと思います。

以上、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。